

大谷スカウト通信

2019 秋



大谷スカウト連合協議会

2018年 事業報告

7月9日	委員会（総会）
8月7日	17NSJ 大谷スカウトのつどい
8月6—9日	17NSJ 信仰奨励パビリオン開設
2月16—17日	第29回大谷スカウトリーダー研修会
3月26—30日	第59回大谷スカウト名誉奉仕訓練
常任委員会	7月9・10日・9月11日・12月10日・3月5日・5月13

第59回 大谷スカウト名誉奉仕訓練

第59回大谷スカウト名誉奉仕訓練が3月26日(火)から30日(土)4泊5日真宗本廟同朋会館を会場にして開催されました。

昨年は、同朋会館改修工事のために開催が見送られましたが、今回はリニューアルされた会館を使って、来年迎える第60回の節目を意識した名訓に24名のベンチャースカウトが参加してくれました。

参加スカウトは、未踏の研修会に不安をいだき非日常的な生活に戸惑いながら、見知らぬ同士が次第に友好を深め、互いを理解しながら五日間の訓練を乗り切りました。

そんなスカウトの中に、ボーイ課程の初級にある「本結びはできません。」と、平気で言うのけるスカウトがいます。時代という時も人も変わりつつある中で、名訓だけは変わらないと言うのではなく、全国的に低迷するベンチャー活動に身を置くスカウトたちに何を伝えていくべきなのか。企画運営に携わる者に投げつけられたような名訓であったように思います。



今回の特別講義は、先に開催されたリーダー研修会の講師としてお越しをいただいた乾文雄先生（大谷中・高校教諭）を講師にお迎えいたしました。

模擬授業という形で行われた講義からスカウトたちは、「わかった」は学校でゴールだが仏教ではスタートだということ、さらに班別座談会をとおして「自分の課題は自分であり自分自身に問いかけることの大切さ」を互いに確認できたということが、報告書の感想文から読み取ることができます。

4日目のプロジェクトハイクでは、京都市内の親鸞聖人のご旧跡を班ごとに訪ねながら、「宗祖伝」が教える800年前の史実を目の当たりにするという体験ができました。

最後の夜の「大営火」では、模擬かがり火を囲んで、班ごとにスタンツ（寸劇）が披露され、大谷スカウトの歌やアクションで交歓のつどいを行いました。

最終日の帰敬式では、5人の仏弟子が誕生し参加者全員で受式を見守りました。

第29回 大谷スカウトリーダー研修会

北名古屋第1団 平野 嘉彦 (名古屋教区)

2019年2月16日(土)から17日(日)の2日間同朋会館において開催され、新しくなった同朋会館・和敬堂に全国からスタッフを含め24名が集いました。

今回は、『私が聞き、私が問われ、私が開かれる』をテーマに、大谷中・高等学校教諭 乾文雄先生に、基調講演・模擬授業をして戴きました。私たちのスカウト運動には、明確な信仰を持つ事が推奨されておりそのプログラムで仏教章が制定されています。



また、大谷スカウト連合協議会では独自にガールスカウト対象の仏教章も制定されています。取得対象年代の中高校生にどのように宗教を教示されているかを学ぶ機会を戴きました。

講義では、『聞・問・開』に、私たちリーダーが子どもたちに接するとき上から見ていないか、子どもたちに育てられている自分に気づく事があるだろうか、私自身振り返ったときに、上から見て気づいていない自分に気づいたことでした。先入観で私が気づいた、解っていると言うところに立つと人の話を聞かないということ、本当に自分はこれで良いのかと言う問いが自分の中から出てこないと聞くことも問いも出てこない。自分の事を言われていると思えなりません。

大谷スカウトが大谷スカウトたる由縁、スカウトの前に大谷がついている事は、親

鸞聖人に出会うこと、いただいていること、それを通して目の前にいるあなたと出会っていききたいと言うことが大谷スカウトである私たちの願いであると気づく事で、この活動をもう一度振り返ることが出来ました。

言葉との出会いも自分に出会うきっかけとなる事、活動の中でどうしていけば良いのか自分に問うていく事、スカウトたちに問わせていく事が、自分の課題となっていきました。

『人間というのは、自分が正しいと思ったときに、その人の持つ、一番いやらしい面ができるんよ。だから気をつけような、お互いに。』講義中感じた言葉を胸に刻みつつ『聞・問・開』で気づいていける自分を見つけていきたいと思えます。

二日目に儀式作法の講義として、本廟部 鬼頭武志堂衆の「声明作法とお内仏のお給仕」がありました。参加者の色々な質問に対応していただき大変有意義な講義でした。



企画運営スタッフの皆様、このような機会を頂いた事に感謝いたします。ありがとうございました



宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年

立教開宗八百年慶讃事業

私たち真宗大谷派スカウトの宗祖である親鸞聖人は、1173（承安 3）年にお生まれになり、2023年に御誕生 850 年を迎えます。

また、親鸞聖人は、法然上人との出会いによって本願に帰し、「顕浄土真実教行証文類」（教行信証）を著して、本願念仏の教えが全人類を斉しく救う「真」の「宗」であることを開顕されました。この「教行信証」を立教開宗の著として受け止め化身土巻にある 1224（元仁元）年を立教開宗の年として以来、2023 年に 800 年を数えます。

この二つをお祝いする私たち大谷スカウトの慶讃行事としてどのような事業を行うか、昨年より各常任委員の皆様から企画案の提案を求めてきました。現在、提出された企画案の集約がほぼ終わり、今後メインとなる記念事業の絞り込みを行って、7月に開催予定の委員会（総会）までに骨格を作り上げる予定です。

「みんなで作る慶讃事業」が最も求められることなので、個々の意見を各教区代表委員や常任委員または、しんらん交流館大谷スカウト連合協議会事務局までお寄せください。

特に、300人規模の野営大会が開催できる候補地を求めています。リトルのつどい（200人）も同時に開催できれば言う事はないのですが、是非とも周りの仲間と話題にさせていただいて、候補地の情報をお寄せください。よりよい大会が開催できることを願っています。

《慶讃法要期間》2023年

第1期 法要

3月25日(土)～4月8日(土) 15日間

第2期 法要

4月15日(土)～4月29日(土) 15日間



参加者 887 名

主催 大谷スカウト連合協議会
後援 真宗大谷派（東本願寺）

1997年 富山県福光町イオックス・アローザ村



参加者 588 名

2008年8月 上越市三ノ輪台いこいの広場



参加者 261 名

2017年8月 60周年全国大会 妙高高原池の平

過去の全国野営大会の会場

- 1993年（平5）北海道大沼公園（689名）
- 1997年（平9）富山県福光町イオックス・アローザ
- 2008年（平20）上越市三ノ輪台
- 2017年（平30）妙高高原池の平（舎営）

2018 年度 仏教章取得者



2018年7月1日～2019年6月30日 教区順 21名

教区	氏名	団名	教区	氏名	団名
東京	郡司 大志	墨田第3団	金沢	竹内 慧	金沢第1団
〃	小野倫太郎	墨田第3団	名古屋	松本 幸也	名古屋第67団
〃	中村華之介	北 第5団	〃	玉井 友梨	北名古屋第2団
〃	酒井 大輔	台東第4団	〃	柳井 優穂	名古屋第42団
〃	春日 奎	台東第4団	岡崎	大羽 瑠偉	みよし第1団
〃	佐々木柚芽	柏 第1団	〃	光岡 友愛	みよし第1団
〃	坂尻 晴輝	柏 第7団	大阪	藏所健太郎	大阪第79団
〃	廣橋 祥晴	柏 第7団	〃	齋藤 淳一	大阪第79団
〃	木下 悠太	柏 第7団	〃	吉川 航平	大阪第53団
〃	稲田 光希	葛飾第2団	長崎	増田 拓海	大村第1団
金沢	升田 健翔	金沢第1団			

3月26日～30日開催の名誉奉仕訓練に参加して

真宗本廟(東本願寺)で帰敬式を受けましょう!!



とししゅん 杜子春

原作・芥川龍之介〈あくたがわりゅうのすけ〉

キャスト 杜子春〈とししゅん〉
母親
鉄冠子〈てっかんし〉
閻魔大王〈えんまだいおう〉
峨眉山〈がびざん〉の悪魔二人

唐の都洛陽の西門の下に、ぼんやりと空を見上げる一人の若者がいる。名を杜子春といい、元は大金持ちの息子だったが、今は落ちぶれてその日暮らしに困っている。

(杜子春一人立っている。)

杜子春 「あー金がほしーい」(といて、しゃがみ込んでいると。)

鉄冠子 「おまえは何を考えているのだ。」
(鉄冠子現れる)

杜子春 「えっ、突然びっくりしたなー。あなたはどなたですか。」

鉄冠子 「わしは鉄冠子という仙人じゃ。おまえは何を考えている。」

杜子春 「わたしですか。私は今夜寝るところもないので、どうしたものかと考えているのです。」(といて、顔を伏せてしまう。)

鉄冠子 「そうか、それは可哀そうだな、何が欲しい。」

杜子春 「お金ですよ。お金をください。」

鉄冠子 「ほほー、じゃあ わしが好いことを教えてやろう」(夕日を指さして)

「もうしばらくして沈む夕日を浴びたお前の影が地に映った頭の部分を、今夜ここにきて掘ってみろ、荷車いっぱい黄金があるはずじゃ」

杜子春 「本当ですか。」驚いて伏せていた顔を挙げたが、仙人の姿は消えていた。

(再び、杜子春西の門の下でしゃがみ込んでいる。)

鉄冠子 「どうした杜子春」

杜子春 「あ、いつかの仙人。できれば、何か食べるものは、ございませんか。」

鉄冠子 「おまえは、大金持ちになっただけじゃないか。」

杜子春 「ええ、この三年間にすっかり使ってしまった。」

鉄冠子 「友だちもいっぱいいたではないか。」

杜子春 「いえ、みんな金目当てで。みんな、私を見ていたのではなく、みんな、金を見ていたんです。」

「みんな、私と話していたのではなく、みんな、金と話していたんです。金がなくなったら、誰もいなくなっていたんです。」

鉄冠子 「おまえの望みは何だ。」

杜子春 「何か食べるものと、少しお金を。」

鉄冠子 「まだ金がほしいというのか？」

杜子春 「お願いします。」

(杜子春一人うなだれている。そこに、鉄冠子あらわれる。)

鉄冠子 「おまえの望みは何だ。」

(杜子春は、首を振るだけ)

鉄冠子 「ほほー じゃあ、また金を授けさず」けよう。この前にいったとおり・・・」

杜子春 「もう金なんかいりません。もう金なんかいりません。それより、あなたの弟子にしてください。あなたは、仙人ですね。私は、あなたのような仙人になりたいです。」

鉄冠子 「ほー いかにも、私は鉄冠子
〈てっかんし〉という仙人じゃ。仙人になるた
めの修行は、辛いぞ。」

杜子春 「はい。覚悟しています。」

鉄冠子 「仙人になるための修行で、命を落
とすかもしれないぞ。」

杜子春 「はい、覚悟しています。」

鉄冠子 「ほー、では行くぞ！」

(仙人が立って、杜子春は座っている。)

鉄冠子 「杜子春、ここが峨眉山〈がびさん〉
じゃ。足を踏み外すと、崖の下に真っ逆さまじ
ゃ。わしは、天上界〈てんじょうかい〉に行き、
西王母〈せいおうぼ〉にお目にかかってくる。
わしが帰ってくるまで、ここに座っているが
よい。多分わしがいなくなると、いろいろな
魔性があらわれて、お前をたぶらかそうとす
るだろうが、どんなことが起ころうとも、決し
て声を出してはならない。」

「もし一言でも口をきいたら、お前は到底く
うてい仙人にはなれない。いいか。天地が
裂けても、黙っているのだぞ。」

杜子春 「大丈夫です。決して声を出しま
せん。命がなくなっても、黙っています。」

鉄冠子 「よし、では行って来るぞ。」

(鉄冠子がいなくなる。杜子春、しばし静かに
座っている。)

悪魔1 「こら！ 誰に許可をもらって、ここ
に座っているんだ。おい、答えろ！」

悪魔2 「こら！ 誰に許可をもらって、ここ
に座っているんだ。おい、聞いているか！ 返
事をしろ！」

杜子春 「なぜここで座っているんだー！」

杜子春 「なぜここで座っているんだー！
誰に許可をもらって、ここに座っているんだ。
おい、答えろ！ 誰に許可をもらって、ここに座
っているんだ。」

「おい、答えろ！」襟をつかまれて、殴られる。
「誰に許可をもらって、ここに座っているんだ。
おい、答えろ！」

また、襟をつかまれて、殴られる。

いろんな武器で脅かされる。でも、杜子春は
声を出さない。

悪魔1・2 「まったく強情なやつだ。閻魔様の
ところに連れて行こう。」

閻魔大王 「杜子春、誰に許可をもらって、蛾
眉山に座っていたのだ。答えろ！」

こたえなければ、おまえの母親が痛い目に
合うぞ。いいか」

杜子春 「沈黙」

閻魔大王 「良一し。母親を連れてこい。」

(二人の悪魔が母親を連れて来る。)

閻魔大王 「杜子春、誰に許可をもらって、蛾
眉山に座っていたんだ。」

閻魔大王 「なぜ口を開かん。えーい やれ
ー。」

悪魔1・2 「エーィ！」

(二人の悪魔が母親の背中を激しく棒で打ち
つける。)

(じっと耐えていた杜子春が、初めは小さい
声、そして大きな声で叫ぶ。)

杜子春 「お母さーん！」

(と叫んで、杜子春が倒れ込むと同時に、母・
閻魔大王・悪魔は、フロアーからはける。後に
しばらくして、鉄冠子が現れ、倒れ込んでい
る杜子春の前に立つ)、

鉄冠子 「杜子春 おもてを上げー。」

「どうだ、わしの弟子になったところで、とて
も仙人にはなれないだろう。」

「今のお前の望みは何だ。」

杜子春 「人間らしい、正直な暮しです。」

鉄冠子 「その言葉を忘れるなよ。わしは今
日限り、二度とお前の前には現れない。さら
ばじゃー。」

おわり

2019年 事業計画

7月22日	委員会（総会）
12月1日	指導要員チーム研修会
3月7日	大谷スカウト名誉奉仕訓練事前会議
3月26-30日	第60回大谷スカウト名誉奉仕訓練
6月27-28日	東西スカウトリーダー研修会兼大Sリーダー研
常任委員会	7月22・23日・9月9日・12月2日・他未定

第30回大谷スカウトリーダー研修会

※今年度は、東西スカウトリーダー研修会と兼ねて開催します。

第4回東西スカウトリーダー研修会

- テーマ：越後の親鸞聖人を訪ねて～
今、真宗スカウトとして～
- 期 日：2020年6月27日(土)～28日(日)
- 会 場：池の平青少幼年センター
- 募集人数：40名（東西各20名）
- 参加費：15,000円（1泊2日）
- 申込締切：2020年5月29日(金)
青少幼年センター必着
- 企画実施：本願寺派スカウト指導者会
大谷スカウト連合協議会
- 2月中に、各登録団と個人登録者宛てに募集要項を発送します。所定の申込用紙に必要事項を記入の上うえ、最寄りの教務所までお申し込みください。
是非とも池の平でお会いしましょう。



第60回大谷スカウト名誉奉仕訓練

- 開催趣旨
親鸞聖人のみ教えに学び、ともに大谷スカウトとして自覚と自信を深め、仏教章取得に向けた一歩とする。
- 期 間：2020年3月26日(木)から
30日(月)まで 4泊5日
- 会 場：東本願寺 同朋会館
- 募集人数：32名(ボーイスカウト・ガールスカウト)
- 団委員長：平野 嘉彦(北名古屋第1団)
- 参加資格：①大谷スカウト登録団に所属する者及び個人登録者
②BSはベンチャー以上
③GSはレンジャー
- 参加費：①研修冥加金16,000円
②米2升6合または米代2,300円

編集後記

最近の常任委員会で委員長が、全国大会は野営で……。と、うわごとのように言っています。一人のスカウトのために最高の野営を体験させてやりたいと願うのは委員長だけではありません。

野営大会は、大谷スカウトの原動力です。野営を体験したスカウトの喜びのためにより良い候補地情報をお寄せください。(大橋)

●発行日：2019年12月1日 ●発行：大谷スカウト連合協議会 <http://tanisco.o.oof.jp/> ☎075-354-3440 FAX 075-351-9599
●事務局：〒600-8164 京都市下京区上柳町199 しんらん交流館（真宗大谷派青少幼年センター スカウト係）